

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100883		
法人名	医療法人祐基会		
事業所名	グループホーム悠祐1Fユニット		
所在地	熊本市水前寺4丁目7-15		
自己評価作成日	平成23年9月7日	評価結果市町村受理日	平成23年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成23年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

熊本市水前寺に位置しているが閑静な住宅街にて静かな環境にある。鳥の声が聞こえさわやかな風が吹きリビングは全面窓となっており温かな光が入るようになっている。開設当初に地域の幼稚園の訪問を受け入居者様と園児の歌声がホーム内に響き楽しいひと時を過ごす事が出来た。入居者様がたとへ直ぐに忘れられても一瞬一瞬楽しく過ごして頂けるよう環境を整え安心安全に過ごして頂けるよう支援していきたいと考えている。また母体が病院である利点を生かし医療面での早期発見・治療など医療や各部署との連携を図り一日でも穏やかな生活が出来るよう対応

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時より認知症ケアを重点的に勉強し、地域への啓発、入居者個々の状況を把握し生活リズムを作る等初期段階の基盤作りに取り組んでいる。入浴・排泄、発語等様々な困難事例を職員と家族との協力により発語を引き出し、排泄の自立につなげる等、事例を通じたケア向上が、和やかな日常となり入居者の笑顔を引き出している。家事手伝い他、折り紙や書道等趣味の継続や編み物をされる方等理念である“その方の能力を引き出し、発揮・継続できる環境の提供”をまさに実践しているホームである。また、職員は入居者の“自分らしさ”“個性”を視点に、入居者とよく会話を交わし、なにげない一言にも着目したケアに取り組んでいることが外食時の金銭授受に表出している。地域密着型ホームとして地域の中での生活を課題としており、運営推進会議を通じた地域との交流促進に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアーへの理念の掲示と日々の朝礼・会議時に唱和する事で意識付けしている	開設時管理者の原案をもとに職員と話し合い、3項目の理念を掲げている。玄関やリビングへの掲示、唱和により意識付けを行い、管理者は朝礼等を通じて、あたたかなまなざしでケアにあたることや理念の一つである「安心と尊厳ある生活」を実践するため事例を通して指導している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧版のやり取りや運営推進会議にてお互いの情報を共有している	回覧板や運営推進会議の中で年間行事をリサーチする等地域との交流に取り組んでいるが、町の中心部という立地や道路環境等もあり、今のところ幼稚園の来訪や運営推進会議で得た情報により地蔵祭りに出かける等に留まっている。管理者は、地域住民の訪問等交流を図り、連携を深める意向である。	近隣住民が気軽に立ち寄っていただけるよう職員が挨拶や声かけを徹底し、ホームの行事への参加を依頼する等次のステップを企画し地域住民との交流を図られることを期待したい。また、幼稚園との関係が構築すれば保護者等の訪問も期待でき、今後も相互交流になるよう継続した取組みに期待される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて自治会・老人会民生委員の方々に認知症の人の状況や病気の進行について話を行っている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状態報告や認知症専門医往診開始など新しいサービスへの開始への過程・状況の説明を行い、また家族様代表によるご意見を頂きサービスの向上に努めている	昨年11月より2ヶ月毎に第4火曜日の開催である。入居者の状況報告、事故・単独外泊等この会議の中で開示し、対応策等を話し合っている。認知症ケアについての報告は具体的で、ケア実践を通じて認知症ケア啓発の一環となっている。	メンバー構成は充分ではあるが近隣住民に参加を依頼したり、家族は輪番で参加されており全家族へ議事録を配布すること等開示方法を検討し、今後も家族等の意見がサービス向上に反映されることを期待したい。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新代行・事故報告・運営推進会議議事録提出にて行き来する機会があり、介護相談員を受け入れ職員や利用者との交流も図っている	事故報告等書類提出時にホームの実情を発信し、介護相談員の訪問時に意見交換を行い報告書を通じて入居者個々の意向を把握しケアに繋げている。また、行政が開催する研修会の参加によりレベルアップを図り、生活保護担当部署とは入居相談やケアプラン提出等連携を図っている。	外部評価結果報告書の提出時等を通じてホームの現状を発信し、運営推進会議への参加を働きかけていただきたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の手引資料を全員で回覧し理解を深めている	“認知症を知る“等の研修や“身体拘束ゼロの手引き”の回覧により身体拘束をしないことを全職員の共通認識としてケアに当たっている。管理者は入居者の言葉をさえぎらないよう指導し、単独外出の事例を通じて職員同士のコミュニケーションの強化や入居者の行動パターンの把握、観察力のアップにより、施錠をしたことのあるフロアーも開錠につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法資料を全員で回覧し理解を深めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度資料を全員で回覧し理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に書面・口頭で時間をかけ、説明している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・ケアプラン説明時や来訪時にお尋ねしている。	日々利用者とのコミュニケーションに心がけ、寄添いのケアや傾聴により要望等の把握に努めている。家族には訪問時や電話による収集の他、運営推進会議を問題提起の場としている。ホームでの食事を知りたいとの希望に献立表を配布したり、毎月家族には個別の報告書とスナップ写真等を提供し、日常生活を開示している。外部の苦情相談窓口の明示と母体法人も意見等の対応先であることを説明している。	家族への毎月の報告書による開示は家族の安心感となっており信頼関係が築かれている。今後、家族同士が一同に会する機会を作り、家族同士の思いを共有したり、悩みの相談やこの中で家族同士の話し合いの場とされることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は全体会議やユニット会議・リーダー会議にて意見を聴いている	全体会議・ユニット会議と職員が意見を挙げる機会が多く、テーブル・椅子やその他の備品も管理者を中心に整備している。物品担当等の担当制とし、消耗品等は管理者を経て母体事務と検討することとしている。また、管理者は日々職員とのコミュニケーションを図り、個別のヒヤリングを通じて意見や要望を聞き、職員同士も休憩時間を活用しながら随時話し合い、ケア向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の職員自身の自己評価を基に検討している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修への機会や院内研修の機会を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体の他施設(グループホーム・居宅・デイサービス等)との情報交換を行っているが母体以外の他施設との交流には至っていない		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまで本人様・本人を知りうる関係者の方々に心身の状況・思いをお尋ねし本人様の意向を受け止める努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご見学(相談)時にこれまでの経緯や、困りごとと不安や利用者に対する思い・介護の意向を聞き、事業者として対応できるか話し合いを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の状況、思いをお聞きし専門医や介護支援専門員への相談を促している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗い・洗濯干し、たたみ等、自分で出来る事はして頂き、共に喜び助けながらお互いを尊重し生活を支え合う関係を作りつつある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出・外泊、状態報告をすることにより共に支え合う関係作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お花の先生であった方は生徒様が面会に来られたり、地域の教会に礼拝に行かれたり、馴染みの店に散髪にと入所前の生活の継続を支援している	通いなれた理容・美容院やかかりつけ医(歯科)の継続、盆・正月の外泊、週2回家族とドライブに出かける方等家族の協力を得ながら馴染みの関係性の継続に努めている。ホームでは節分・七夕・お雛様等慣習を採り入れ、知人の訪問や趣味の継続等に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について情報を共有し円滑になるよう支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、家族様に本人様の状況をお聞きするなどしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で本人様の言動や態度にて思いを感じ取るよう心掛けている	入居者の言動や行動を把握し個々の思いを気づき、申し送りノートや日々の記録を充実させ、情報を共有している。また、夜勤帯の時間を活用し会話に取組み、コミュニケーションの難しい方には表情やしぐさにより推察したり、選択肢を投げかけながら本人本位となるよう努めている。「家に帰りたい」との要望にドライブに出る等本人の希望に応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族や関係者から聞き取り把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムの把握に努め発語や表情、行動を観察し把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は介護サービス計画書を作成し多くの意見を聞き介護計画を立てている	申し込み時にグループホームの理解を得ることと個々の状況を把握し、入居時に暫定プランを立て、本人を知る期間とし1ヶ月後に見直し正式なプランを策定している。3ヶ月毎のモニタリングにより達成度を見極め、担当者会議には家族も参加し話し合い、同意を得ている。ADL、支援内容、発語等担当職員が詳細に記録することで観察力のアップにつなげ、ケアに直結するプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や変化について個別記録に記録しており、申し送りノートや個別の受診記録にて状態の把握に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体の変化や重度化していく状況の中で状態に応じ訪問看護師やリハビリ等との意見交換を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らし続けられるよう自治会・民生委員と意見交換を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体以外の希望される医師の受診を行っている	本人・家族のかかりつけ医での受診も可能であることや、病院を母体としていることを説明している。母体への受診・往診と訪問看護や訪問歯科を取り入れ、看護介護記録を充実させ、受診・往診の参考資料としたり、日々の健康管理の徹底により異常の早期発見に努めている。認知症専門医の往診も採り入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の看護師が往診時に付き添い、週2回の訪問にて状態の記録や情報の収集にあたり対応を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の状態や支援方法に関する情報を医療機関に提供し管理者・職員が見舞いし情報交換を行い早期の退院が出来るよう対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する対応方針を定め契約時に話し合っている	契約時に重度化した場合における指針と具合的支援内容を説明し同意書を交わしている。医療中心や常時苦痛が伴う場合にはホームでの対応は難しいと考えており、入居者個々の状況に応じて主治医や管理者・ケアマネジャー・担当職員や家族と協議することとしている。	開設1年目の事業所ではあるが、97歳を最高齢として90歳代も多く、今後も家族との話し合いを重ね、少しでも長くこのホームでの生活が継続されることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや対応時の資料の回覧を行い理解して頂く様に対応している		
t	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っている。地域の協力体制は運営推進会議で話題にはなっているが体制の構築には至っていない	自主訓練と消防署立会いの総合訓練を年2回行っている。自然災害対策として、今後、備蓄や地震・水害等のマニュアル作成や、地域や母体との協力体制を整備していく意向である。	運営推進会議を通じて、今後地域との相互協力体制の話し合いや訓練日の周知の仕方等を検討し、近隣住民も訓練の見学に訪問されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄・入浴時、本人様の羞恥心に配慮し声掛け対応している	本人の気分を考慮したトイレ誘導や使用時にはトイレの前で入居者を待っている姿勢等に、理念の第一項に掲げた「安心と尊厳のある生活」を落ち着いたケアで実践していることが確認できた。個人情報保護に関する基本方針に則り、個人情報の使用に関する同意書を得る仕組みとして整え遵守している。守秘義務については入職時に説明している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時のお茶の時間には何種類かのお茶の中から本人様に選んで頂いている。利用者個々に合わせた声掛けや訴える事が困難な方に関しては表情や態度を観察し対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	編み物・折り紙・習字・歌唱など本人様のやりたい事を行って頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お風呂上がりは乳液を付ける・洗顔後おしろいをはたくなど声掛け支援している。月1回の訪問美容や馴染みの美容院へ外出するなど本人様の希望に合わせている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	安全に楽しく食べて頂けるよう食事形態を一人一人の状態に合わせて対応している。食後はお盆吹きや台拭きなど役割を待って頂いている	家庭料理を中心に盛り方にも心を込めた料理を提供している。入居者もお盆や台拭き、自然発生的に食器洗いに取組む方等できることに取組んでいる。朝食の時間帯やパン食にする方等もあり、1階ではゆっくりとした介助を受ける人もあるが、入居者と職員とが和やかに食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表で管理し誤嚥やムセのある方にはお茶ゼリーを作るなど本人様に食べやすい形態し提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時の口腔ケアは残存機能を生かした声掛けや週1回の訪問歯科を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、また本人様の排泄サインを探りオムツの使用を減らすよう心掛けている	排泄チェック表により個々のパターンを把握し、昼夜を問わずトイレでの排泄を支援している。排泄サインの察知・誘導により汚染も少なくなり、ポータブルトイレ使用が無くなり、オムツの使用も改善され、トイレでの自尿につなげる等自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食品や乳製品を取り入れ対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めしまわらずに、個々にそった支援をしている	本人様やご家族の希望を取り入れ状態に合わせて対応を行っている	基本的には1日置きの入浴としているが、本人・家族の意向を踏まえて支援している。入浴したことを忘れる入居者は風呂場のサイン帳に自らサインをしたり、入浴拒否に声かけや職員を代えるなど工夫している。入浴時家族が訪問され誘導されていた方も職員との信頼関係が生まれ改善に至っている。また、たらいを使った足浴・手浴等も採り入れ、悠祐の湯と命名された浴室では温泉気分を味わっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の本人様の体調や希望に合わせて休息の時間を作っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬内容・薬手帳をカルテに入れ、いつでも見る事が出来るようにし申し送りノートを作成しチェックできる体制を作っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物・折り紙・習字・読書・歌唱など本人様の楽しみごとを取り入れ、おやつや誕生日には入居者様の希望を取り入れている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの外出希望にすべて対応することは出来ていないがホーム前の散歩の希望などは状況が許す限り対応を行っている	地蔵祭りやファミリーレストランでの外食、趣味である編み物の毛糸購入に出かけたり、ドライブを兼ねた薬取り、生活用品の購入等職員が支援している。外出希望に休日に家族と一緒に出かけの方等家族の協力支援による外出も大きいところである。	ホームの立地条件から気軽に散歩に出かけることは困難な状況にある。動物園や花見等全員での外出が計画されており、ボランティアの活用も視野に外出の機会を増やし、更に活気のある生活になることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様のが日常生活で使うものをスタッフと一緒に近所の店へ必要な金銭だけ持ち買い物をして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話支援を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りカレンダーで季節感を楽しんで頂き毎日、日付曜日を入れ替えて頂いている。リビング窓を開放し風や鳥の声が聞こえ、穏やかな光が差し込むようになっている。	玄関や1F・2Fの共有空間は明るく、リビングや廊下は車椅子使用の入居者にはゆとりのある広さとなり、365歩のマーチに合わせた歩行訓練の場として活用されている。各ユニット毎に入居者の状態に応じ動線に気をつけテーブル配置されたリビングや、壁面を利用した入居者の作品（折り紙等）の掲示は自信回復となり、採光の良い清潔感漂う室内となっている。日めくりカレンダーは見当識のみならず入居者の役割りとした活用され、職員は温度管理や換気に気を配り、居心地良く過ごすよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、また畳で横になるなど思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた寝具や筆筒、家族の写真を持ち込んで頂き本人様が馴染んで頂くよう対応している。	契約時に使い慣れたもの等の必要性を説明しており、これまでの生活を継続できるようにベッド・筆筒やテレビ・仏壇・ソファ等が持ち込まれている。多くの写真や自作の作品等を飾り、整理整頓された居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアーバリアフリーで手すり設置また居室やトイレ入浴室の表示を工夫したり排尿回数の多い方はトイレの近くに居室を設けるなど安全に生活できる様対応している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100883		
法人名	医療法人祐基会		
事業所名	グループホーム悠祐2Fユニット		
所在地	熊本市水前寺4丁目7-15		
自己評価作成日	平成23年9月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成23年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

熊本市水前寺に位置しているが閑静な住宅街にて静かな環境にある。鳥の声が聞こえさわやかな風が吹きリビングは全面窓となり温かな光が入っている。開設当初に地域の幼稚園の訪問を受け入居者様と園児の歌声がホーム内に響き楽しいひと時を過ごす事が出来た。入居者様がたとへ直ぐに忘れられても一瞬一瞬楽しく過ごして頂けるよう環境を整え安心安全に過ごして頂けるよう支援していきたいと考えている。また母体が病院である利点を生かし医療面での早期発見・治療など医療や各部署との連携を図り一日でも穏やかな生活が出来るよう対応していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアへの理念の掲示と日々の朝礼・会議時に唱和する事で意識付けしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧版のやり取りや運営推進会議にてお互いの情報を共有している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて自治会・老人会・民生委員の方々に認知症の人の状況や病気の進行について話を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状態報告や認知症専門医往診など新しいサービス開始への過程・状況の説明を行い、また家族様代表によるご意見を頂きサービスの向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新代行・事故報告・運営推進会議議事録提出にて行き来する機会があり、また介護相談員を受け入れ職員や利用者との交流も図っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の手引資料を全員で回覧し理解を深めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法資料を全員で回覧し理解を深めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度資料を全員で回覧し理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に書面・口頭で時間をかけ、説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・ケアプラン説明時や来訪時にお尋ねしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は全体会議やユニット会議・リーダー会議にて意見を聴いている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の職員自身の自己評価を基に検討している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修への機会や院内研修の機会を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体の他施設(グループホーム・居宅・デイサービス等)との情報交換を行っているが母体以外他施設との交流には至っていない		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまで本人様・本人を知りうる関係者の方々に心身の状況・思いをお尋ねし本人様の意向を受け止める努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご見学(相談)時にこれまでの経緯や、困りごとや不安や利用者に対する思い・介護の意向を聞き、事業者として対応できるか話し合いを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の状況、思いをお聞きし専門医や介護支援専門員への相談を促している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗い・洗濯干し、たたみ等、自分で出来る事はして頂き、共に喜び助けながらお互いを尊重し生活を支え合う関係を作りつつある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出・外泊、状態報告をすることにより共に支え合う関係作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達や御親戚・御兄弟の面会や馴染みの美容室に行かれている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について情報を共有し円滑になるよう支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、家族様に本人様の状況をお聞きするなどしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で本人様の言動や態度にて思いを感じ取るよう心掛けている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族や関係者から聞き取り把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムの把握に努め発語や表情、行動を観察し把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は介護サービス計画書を作成し多くの意見を聞き介護計画を立てている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や変化について個別記録に記録しており、申し送りノートや個別の受診記録にて状態の把握に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体の変化や重度化していく状況の中で状態に応じ訪問看護師やリハビリ等との意見交換を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らし続けられるよう自治会・民生委員と意見交換を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体以外の希望される医師の受診を行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の看護師が往診時に付き添い、週2回の訪問にて状態の記録や情報の収集にあたり対応を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の状態や支援方法に関する情報を医療機関に提供し管理者・職員が見舞い情報交換を行い早期の退院が出来るよう対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する対応方針を定め契約時に話し合っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや対応時の資料を回覧し理解して頂く様に対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っている。運営推進会議で話題にはなっているが体制の構築には至っていない		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄・入浴時、本人様の羞恥心に配慮し声掛け対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者ここに合わせた声掛けや訴える事が困難な方に関しては表情や態度を観察し対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ急がせないようにしている声掛けも拒否があった場合は時間をおき声掛けを行うなど様子を伺い無理強いないよう対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えの準備は一緒に行い起床時や洗髪後の髪の手入れも本人様に合わせてやって頂くよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全に楽しく食べて頂けるよう食事形態を一人一人の状態に合わせて対応している。食後は食器洗いやお盆吹き・台拭きなど役割を待って頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表で管理しおかゆや刻み食等本人様に食べやすい形態にて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時の口腔ケアや訪問歯科にて行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、また本人様の排泄サインを探りオムツの使用を減らすよう心掛けしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食品や乳製品を取り入れ対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様やご家族の希望を取り入れ状態に合わせて対応を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の本人様の体調や希望に合わせて休息の時間を作っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬内容・薬手帳をカルテに入れいつでも見ることが出来るようにし申し送りノートや受診記録にて変更がチェックできる体制を作っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみ、整理、食器洗い、掃除など出来る範囲で役割を決め手伝って頂いている。嗜好品については利用者の好みを考え提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食・お参り・買い物など気分転換できるように外に出る機会を作っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食や買い物時に本人にお金を渡し支払いをお願いしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時に対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング窓を開放し風や鳥の声が聞こえ、穏やかな光が差し込むようになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	固定の席は決めず本人様の好きなところに座って頂き、また畳で横になるなど思い思いに過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れていた筆筒や仏壇、家族の写真を持ち込んで頂き本人様が馴染んで頂くよう対応している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアーバリアフリーで手すり設置また居室やトイレ入浴室の表示を工夫し安全に生活できる様対応している		